

上方文化講座
15周年!!

大阪で育まれた
伝統芸能

人形浄瑠璃文楽

2階企画展示

平成30年8月13日-9月16日



さんきょう

「人形浄瑠璃文楽」は、三業（太夫・三味線弾き・人形遣い）が息を合わせて、一つの物語を演じる伝統芸能です。ここ大阪の地で時代を越えて育まれてきました。ユネスコの無形文化遺産でもあります。

学情センター2階では、この「文楽」に関する本を展示いたします。入門書はもとより、作品やあらすじ、芸談、興行の変遷、研究書、文楽公演のプログラムなど、様々な「文楽」の本を集めました。文楽観劇未経験の方から愛好者まで、楽しめる内容になっています。

8月21日〜23日には、学情センター10階大会議室で、『上方文化講座』が開催されます。これに併せて、今年度の講座で取り上げる「妹背山婦女庭訓」に関連する本や桐竹勘十郎師のご著書も展示します。

『上方文化講座』は、「文楽」を学問的体系のもとに学ぼうとする文学部の特別授業科目です。竹本津駒太夫（太夫）・鶴澤清介（三味線）・桐竹勘十郎（人形遣い）の三師を客員教授にお迎えして行われます。

残暑厳しいこの時期に、本を通して、味わい深い「文楽」に触れていただいで、今後の観劇にも役立ててください。